

平成 25 年 度

事 業 計 画 書

平成 25 年 4 月 1 日から

平成 26 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 科学技術広報財団

はじめに

公益財団法人科学技術広報財団（以下「財団」という）は、1973年（昭和48年）に「科学技術に関する広報啓発を行い、もってわが国の科学技術の振興に寄与する」ことを目的に、民間の科学ジャーナリスト有志により設立され、設立以来の目的を变えることなく今日に至るまで幅広い広報活動を続けており、2012年11月に公益財団法人として新たな歴史を踏み出すことになりました。

平成25年度は、7月に財団創立40周年を迎える記念すべき年であり、また公益財団法人へ移行して最初の事業年度です。新しい定款の下、組織及び規程類ほかの整備を行い、財団の目的を達すべく事業を適切に進めていきます。

事業の実施にあたっては、今日の科学技術の進歩の中で、常に時代の変化に対応して、科学技術への関心や興味喚起及び科学知識の理解増進のため、科学技術に関する情報を広く一般社会に発信し科学知識を普及すること、また、科学技術広報に関わる人材の育成を行うなど、広範な科学技術に関心と理解を深める広報活動を進めていきます。

財政的に厳しい状況下、経費の節減を図りながら収支の改善、収益の確保に努めるとともに、新しい事業機会を求めて活動を推進していきます。

I. 全体運営

(1) 理事会の開催

通常理事会を6月及び3月に開催する。必要に応じて臨時理事会を開催する。

(2) 評議員会の開催

定時評議員会を6月に開催する。必要に応じて臨時評議員会を開催する。

(3) 企画委員会

財団の新規事業企画及び推進のため、外部の専門家による委員会を設置する。

(4) 広報活動

最新の科学及び技術に関するトピックスを提供するほか、科学技術に関わる法人・団体とのネットワークを充実させることにより、ホームページを通じた財団広報活動の活性化を図る。

II. 事業

1. 科学技術の広報に関する調査研究及び刊行物等の編集及び頒布

科学技術に関するポスター及びグッズの頒布を通して、広く一般の科学技術への関心や興味喚起及び科学知識の理解増進に寄与する。

(1) 科学ポスターの企画・作成及び提供

科学に対する興味の啓発のため文部科学省が制作した科学ポスター（一家に一枚シリーズ）を複製し有料頒布する。また、最新の科学研究成果への興味喚起及び知識の理解増進を目的として、財団オリジナルの科学ポスター作成に取り組む。

書店、科学館など、一般に提供が可能となるよう品揃えの拡充及び販売委託費の改訂を行い販売委託機関の拡大に努める。

事業の収益構造を見直し、継続的發展を図るため販売料金の改定をおこなう。

(2) 科学グッズの企画・開発及び提供

広く一般向けに科学技術への関心や興味喚起及び科学知識の理解増進を図るため、商品の企画・開発をおこない、科学館などの教育文化施設のショップなどに提供する。

2. 科学技術に関する広報啓発並びに人材の育成

科学館などの教育文化施設の運営及び運営支援を行うことにより、科学知識の普及啓発並びに科学技術広報に関わる人材の育成に貢献する。

科学技術に関する展示・映像コンテンツの企画・開発を行い、提供・巡回することにより、広く一般への科学技術への関心や興味喚起及び科学知識の理解増進に寄与する。

2-1. 科学館の運営及び運営支援

- (1) 新潟県立自然科学館の指定管理者（民間事業者との共同事業）として、常設展示の運用、一部展示の更新、特別展・実験教室の開催など、引き続き質の高い運営をおこなう。
- (2) 横浜こども科学館に対する運営協力として、展示運営及び教育普及活動の企画支援をおこなう。
- (3) 新たな広報活動と人材育成の場を求めて、積極的に指定管理者の公募案件に応募していく。

2-2. 展示・映像コンテンツの企画・開発及び提供

(1) ドラえもんの科学みらい展

平成 22 年 6 月より 3 年間の予定で、実行委員会（財団ほか民間企業 4 社）を組成し共同事業方式により企画・制作した「ドラえもんの科学みらい展」の巡回展示を、平成 25 年 10 月まで契約延長しておこなう。

(2) 展示コンテンツの開発

助成事業として、「海底二万里の世界」の企画、提供をおこなう。

(3) プラネタリウム映像制作

他の科学館と連携して、番組制作に取り組む。

(4) 日本科学未来館特別展の巡回支援

日本科学未来館が企画・実施した特別展（複数のコンテンツ）の有効利用と全国の科学館などへの展示支援として巡回展示のプロモートを未来館のパートナーとしておこなう。

(5) 化学教室の全国展開

日本化学工業会との共同企画として、(仮)「夢・化学 2 1 展」を財団が事務局となり全国の科学館向けに展開する。

(6) 展示・映像コンテンツの提供

財団の所有する展示コンテンツ「サイエンスクエスト」（昨年新潟県立自然科学館で実施した）のプロモートを促進する。

プラネタリウム映像の「アイスワンダーランド」のプロモートを推進する。

3. 科学技術普及・利用に係る広報・支援及び施設・展示の企画・立案

科学技術関連団体の広報活動を支援する。また、広く団体・企業の依頼により、団体・企業の持つ科学技術の普及と利用促進を目的とした広報に関わる活動の支援及び科学館などの教育文化施設の施設・展示に関わる企画・立案を収益事業としておこなう。

(1) 科学技術関連団体の広報活動支援

日本科学オリンピック推進委員会が開催する各種国際科学オリンピックの情報及び地学の日本委員会事務局への支援業務をおこなう。

(2) 団体・企業の広報活動支援（収益事業）

団体・企業からの依頼により、団体・企業の持つ科学技術の普及と利用促進を目的とした広報活動への支援をおこなう。

4. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(1) 助成事業

25年度は、公益財団法人日本財団より助成金の交付を受けて、日本財団助成事業として、「海底二万里の世界」ー未知なる世界“深海”を潜航せよ！ーのテーマで、(独)海洋研究開発機構の協力を得て、広く一般の深海に関する科学知識（深海環境・深海生物・海底資源）について、興味や関心を深める展示を創り上げる。

この展示は、助成事業として広く公表することを目的として巡回展示とし、本年は新潟県立自然科学館で実施する。助成金額は17,850,000円。

(2) ロボット研究開発技術のアーカイブ化

多数のロボット研究に携わってきた研究者が退職の時期を迎える。その研究の膨大な成果は研究室に置かれており、研究者の退職（研究室の閉鎖）と共に散逸してしまう恐れがある。ロボット研究のこれまで蓄積されてきた知見・技術の成果をアーカイブ化することで、広く一般に公開する場（科学館ほか）を通して、科学技術への関心や興味喚起及び科学知識の理解増進につなげていく。

以上